外務大臣賞・会場審査員賞

「北の国で学んだ三つのこと」

ドミニク　バゲンダ　カスッジャ
Mr. Dominic Bgenda Kasujja
（ウガンダ　はこだて未来大学特任講師）

2003 年に来日北海道大学大学院水産科学研究院に留学。2009 年４月より、はこだて未来大学で勤務しています。日本で得た知識、知恵や経験をアフリカの人々のために役立たせることが夢です。

日本で「戦後」というと第2次世界大戦後の平和な時代のことを言うのだと思います。私はこの日本の「戦後」という言葉が好きです。世界の各地には「戦後」のない国がたくさんあります。ウガンダでは私の世代を「戦争の子」と呼びます。というのは内戦の中で生まれ育った、平和を知らない世代だからです。私が生きている間、アフリカに「戦後」は訪れるのでしょうか。ウカンダの平均寿命によると、今、35歳の私には、あとわずか17年しか残されていません。驚かないでください。ほんの20年前の平均寿命は37才でしかなかったのです。これは内戦と病気の影響でした。お陰でウカンダでは年金や天下りと言った問題はありません。偉い人もまたそうでない人も、はやばやと天国へ引っ越してしまうからです。

私は北の国で冬という自然の「教室」で三つの大切なことを学びました。ウガンダから北海道にやってきたのは6年前の春でした。ウガンダには夏しかないので春の魅力にその時は全く気付かないでいました。ある日、お花見パーティーに招待されました。アフリカでは経済的な事情もあってパーティーはクリスマスと結婚式の時だけです。一年中咲いている花を見るためにパーティーをするのはなんとマヌケなことだろうと思いました。ところが、北の国ではマヌケは私のほうでした。「花より団子」のことわざ通り花の下でジンギスカンをたっぷりいただきました。お花見は楽しくてとてもおいしかったです！

春が過ぎ、秋になりやがて冬がやってきました。初めて経験する冬の寒さには心底おどろきました。そして、アフリカの暖かさが恋しいのはもちろんのこと、お花見パーティーの楽しさが懐かしく思い出されました。春の魅力は厳しい冬があってこそなのだ、と知らされました。冬を知らない人は春の大切さが分からないのです。戦争の悲惨さを知らない人は平和の尊さが分からないのです。戦争の冬が終わり、平和の春が世界中に「戦後」を連れてくることを願わずにはいられません。冬が終われば春は必ず来るのです。これが北の国で学んだ一つ目のことです。

冬という教室での学びはそれだけではありませんでした。初めての冬の寒い日のことです。隣に住んでいたおじいさんが、朝と晩、ママさんダンプで一生懸命に家の前の雪かきをしていました。最初は運動のためかなと思いました。「もっと積もってからやったら良いのに・・・。そうすれば朝と晩二回ではなく一回で済むのに・・」。でも、間違っていたのは私でした。二日後、雪がたっぷり降り積もったので、雪かきをしょうとしたら、雪が氷のようにカチンカチンに固まっていてアフリカ人の全力を使っても取ることができません。きれいに雪を取ってあるお隣さんの玄関前をうらやましく眺めるしかありませんでした。このとき初めてわかりました。一日の生活の中で人間関係が壊れるようなことが雪のように積もってしまうこ

とがあります。これを凍らせてはいけません。その日の怒り、不一致、嫌なことは全てその日のうちに片付けるべきです。そうすれば「戦後」という平和の春が世界中に早くやってくるのではないでしょうか。これが北の国で学んだ二つ日のことです。

「知っているのにやらないこと」皆さんにもありませんか？

私は、ある朝早く、家を出たとたん家の前の氷の上で転んでしまいました。目の前が一瞬真っ暗になり、そのまま動けませんでした。

「このまま寝ていたら、凍え死んでしまうかもしれない」。

「お隣さんに見られたら一生の恥だ」。

私は雪の上によつんばいになり全力で立ち上がりました。

雪かきの重要性を知っていながら怠けました。失敗でした。失敗だと知っているのにやらないでいるともっと大きな失敗につながります。アフリカが戦争を失敗だと知って立ち上がるのを祈っています。

これが北の国で学んだ三つ目のことです。

日本の滞在期間を終えて私はいつの日か帰国するだろうと思います。一年中夏のアフリカで、北の国で学んだことを私は語らないではいられないでしょう。どんなに厳しい冬の状態であっても失敗から立ち上がって、様々な問題を固い氷になる前に取り除けば春はやってきます。私が生きているうちにアフリカにも必ず「戦後」と言う平和な春がやってくることを信じています。

ご清聴ありがとうございました。